

太陽と共に

かならず はる が くる よう に
 きつ と く る の さ し あ - わ せ は
 だ か ら かなしみ は かなしみ はすて よ - う
 あおぞら よ あおぞら よ た い よ - よ
 わたしたち と と も に い つ ま で も い つ ま で も
 も D.C

太陽と共に

作詞 野口鐘次郎
 作曲 双葉あきら
 編曲 前田 俊明
 プロデュース 一般社団法人 全肢連

- 一、かならず春がくるように
 きつとくるのさ 幸福は
 だから悲しみは
 悲しみは 捨てよう
 青空よ 青空よ 太陽よ
 わたしたちとともに
 いつまでも いつまでも
- 二、重たい夢を背負うから
 夢が見えなくなるんだよ
 みんな前向いて
 前向いて歩こう
 青空よ 青空よ 太陽よ
 わたしたちとともに
 いつまでも いつまでも
- 三、もうすぐ長い夜が明ける
 いのちありがとう これからも
 きつと幸福を
 幸福を信じよう
 青空よ 青空よ 太陽よ
 わたしたちとともに
 いつまでも いつまでも



目 次

大会決議文	
大会風景	1
全肢連歌（太陽と共に）	12
目次	13
開催要項	14
大会日程	15
開会式典	16
基調報告	27
記念講演：バリアフリー落語	32
パネルディスカッション：これからどうなる？障害者福祉	34
パネルディスカッション：災害を乗り越えて幸せに暮らすには ～己の持つ絆を再確認しよう～	53
閉会式典	78
ご来賓名簿	83
役員	84
参加者一覧	85
寄付、広告・協賛、支援者御芳名	86

第45回 全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会 第32回 東北地区全国肢体不自由児者父母の会連合会宮城大会 開 催 要 項

趣 旨

障害者福祉は平成15年度に「措置制度」から「支援費制度」に移行され、更に平成18年度には「障害者自立支援法」に施行されるなど目まぐるしく変遷した。「支援法」も施行後3度の見直しが行われ、平成21年に「障がい者制度改革推進本部」、「障がい者制度改革推進会議」が発足し、「障害者自立支援法」は廃止し、「制度の谷間」がなく、サービスの利用者負担を応能負担とする「障害者総合福祉法」を制定することとされていたが、結局は改正にとどまる「障害者総合支援法」として閣議決定された。同時に「障害者権利条約」の早期批准を踏まえ、「障害者基本法」が改正され、障害者差別禁止法（仮称）の制定などの議論も精力的に進められている。しかし、現今の政治情勢、国の財政逼迫などで早期の新法制定は予断を許さない状況にある。

一方父母の会の障害者当事者とその家族の周辺に目を向けると、親と「児」の高齢化、障害の重複化など家庭での介護や地域での生活確保などに、より多くの支援が望まれる事態が顕在化してきている。また支援法下での、在宅や施設から地域への生活転換もその支援体制は充分とは言えず、父母の会会員の長年の願いである「親亡き後」の不安は依然として解消されていない。

障害を持つ子供たちが生きがいをもち安心して暮らせる社会の実現のため、私たちが取り組むべき課題は何か、新しい福祉法が制定されようとしている今、父母の会の結成の原点に立ち返り、地域で安全・安心に生活できる施策を求める運動の第一歩を踏み出す大会として本大会を開催する。

昨年3月11日の東日本大震災の発生は、大災害に際して障害者の生命を如何に守るかの課題を真剣に考えなければならないことを提起した。国や自治体による災害時における障害者を保護する施策は障害者基本計画、障害者プラン、障害者福祉計画や災害時要援護者支援ガイドライン等と一応整備されていたが、今回の大震災に際しそれらが実際に機能したかどうかを検証し、今後予想される巨大地震に備え、自助・共助・公助の体制を如何に整備すべきか、またそのために父母の会の活動はどうあるべきかを検討する大会とする。

主 催

一般社団法人 全国肢体不自由児者父母の会連合会
東北地区全国肢体不自由児者父母の会連絡協議会
宮城県肢体不自由児者父母の会連合会

テ ー マ

21世紀の障害者福祉は・・・

開催期日

平成24年9月8日(土)～9日(日)

会 場

仙台市情報・産業プラザ 5階「多目的ホール」ほか

後 援

(順不同)

内閣府、厚生労働省、文部科学省、宮城県、仙台市、日本肢体不自由児協会、全国心身障害児福祉財団、全国重症心身障害児(者)を守る会、全国社会福祉協議会、全国特別支援教育推進連盟、全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会、全国特別支援学校肢体不自由教育校長会、全国肢体不自由児施設運営協議会、宮城県肢体不自由児協会、宮城県社会福祉協議会、仙台市社会福祉協議会、宮城県身体障害者福祉協会、仙台市障害者福祉協会、宮城県重症心身障害児(者)を守る会、宮城県拓桃支援学校、読売新聞東北総局、朝日新聞仙台総局、毎日新聞仙台支局、産経新聞社東北総局

 河北新報社、 仙台放送局、 TBC東北放送、 仙台放送
 三洋電機、 KHB東日本放送、 Date fm

大会日程

総合司会 橋本 俊一

【第1日】 9月8日(土)

11:30～	受付開始		
12:30～13:20	開会式典		
	開会のことば	全肢連副会長	木村 雄三郎
	全肢連歌斉唱		
	物故者への黙祷		
	歓迎の挨拶	大会実行委員長	岩崎 志郎
	主催者挨拶	全肢連会長	清水 誠一
	来賓祝辞	厚生労働大臣	小宮山 洋子
		文部科学大臣	平野 博文
		宮城県知事	村井 嘉浩
		仙台市長	奥山 恵美子
		日本肢体不自由児協会理事長	田中 健次
		韓国脳性麻痺福祉会会長	崔 京子
		中国残疾人联合会団長	李 玲
	祝電披露		
	全肢連基調報告		
	閉式のことば	全肢連常務理事	上野 密

◇第一部 記念講演&パネルディスカッション◇

13:40～15:10	記念講演	バリアフリー落語	桂 福点
		演題「大笑いゼーションでノーマライゼーション」	
15:20～17:00	パネルディスカッション	「これからどうなる？障害者福祉」	
	コーディネーター	三浦 剛(東北福祉大学教授)	
	パネリスト	初鹿 明博(衆議院議員 民主党障がい者WT事務局長)	
		衛藤 晟一(参議院議員 自民党障害者特別委員会委員長)	
		佐藤 秀美(障害者支援施設「不忘園」施設長)	
		石橋 吉章(全肢連理事・元総合福祉部会構成員)	

◇第二部 情報交換会◇

18:30～20:00 情報交換会

【第2日】 9月9日(日)

9:00～ 受付開始

◇第三部 市民フォーラム◇

9:30～11:30	パネルディスカッション		
		「災害を乗り越えて幸せに暮らすには～己の持つ絆を再確認しよう～」	
	コーディネーター	北島 宏一(宮城県肢体不自由児協会副会長)	
	パネリスト	株木 孝尚(JDFみやぎ支援センター責任者)	
	宮城県	杉山 裕信(CILたすけっと副代表)	
	秋田県	渡邊 啓宇(秋田市父母の会事務局長)	
	青森県	三浦 令(青森県肢連会員)	
	岩手県	菅原 敬子(岩手県立盛岡となん支援学校副校長)	
	福島県	佐藤 保子(福島県肢連副会長)	

11:40～12:00 閉会式典

大会決議文採択	宮城県肢連幹事	瀧澤 琴子
開催地謝辞	宮城県肢連副会長	金子 武次郎
次期開催県挨拶	全国 沖縄県肢連会長	新里 吉弘
	東北地区 福島県肢連会長	照山 成信
大会終了宣言	全肢連副会長	大野 博澄